

大項目 2 教育研究組織

【目標】

大学は、設立の主旨に基づき、理念を実現するために、適切な教育研究組織を設置し、教職員数を確保し、施設・設備を配備する。さらに学術上、社会的な要請に応え、教育研究活動をより高度化するために、組織の充実について不断の努力をする。

A群 当該大学の学部・学科・大学院研究科・研究所などの組織の教育研究組織としての適切性、妥当性

●現状把握

武蔵野美術大学は、帝国美術学校として発足した後、武蔵野美術短期大学を1957年に開設し、武蔵野美術大学を1962年に開設した。その後、大学院修士課程を1973年に、また博士後期課程を2004年に開設する一方で、2002年には造形学部通信教育課程を開設した。

2006年5月1日現在、11学科からなる造形学部、4学科からなる通信教育課程、2専攻からなる修士課程、そして博士後期課程を有する美術大学となっている。

教育研究組織としては、1963年にヨーロッパの主要美術大学とともにパリの国際芸術都市創立会員として参加して制作拠点を持ち、さらにヨーロッパの主要4美術大学と学生の交換を含む交流をはじめ、現在アジアおよび南北アメリカ、ヨーロッパの多くの大学との間で交流をおこなうなど、国際教育の支援を積極的にすすめてきた。

また、1967年には、図書資料と美術資料の両方を有機的に関係づけ、教育研究のために活用するために美術資料図書館というユニークなライブラリーを開館した。

●点検・評価

本学は主要な美術大学であるべく、教育研究組織を整備しながら、さまざまな活動を展開してきた。

(1) 国際芸術都市の維持をはじめ、欧米の主要な美術大学との交流を通じた国際教育の支援。これには海外から訪問教授として招聘した教授による授業も含まれる。

(2) 美術資料、図書資料、博物資料（民俗資料）からなる美術資料図書館による資料整備。このなかで民俗資料については2005年に13号館が建設され、そのなかで集約されることになった。また映像資料のためのイメージライブラリーを設置している。

(3) 東京五美術大学卒業制作展、若手の芸術家のためのギャラリーαM展、ブルーノ・タウト、ウルム造形大学、フランツ・チゼック等20世紀を代表する造形活動に関する大規模な企画展示、等の展示活動。

(4) 早稲田大学との授業の交換、近隣の5大学との間での授業や情報の交換を目的とした多摩アカデミックコンソーシアム等、他大学との交流を通じた教育支援。

(5) 通信教育課程用教科書をはじめ、MAUライブラリー等、大学の教育研究成果を発信する出版活動。

(6) 2004年には産業界と大学との共同研究を促進するための研究支援センターの開設。

(7) 教育研究成果の公表媒体としての研究紀要と公開講座と地域フォーラム等のエクステンション活動。

本学の教育研究組織は、学部から大学院博士後期課程までの垂直構造と、学外産業界や国内の大学・海外の大学と協同し教育研究の効果を高めるための開かれた水平構造を持つに至ったといえる。

●改善・改革方策

単科大学という限られた人数や規模を配慮して、それぞれの組織で教育研究を展開できるような効率的な運用を探る。